

2022年度航空宇宙工業国際交流・広報事業 (ファンボローエアショー FIA2022)

(一社)日本航空宇宙工業会(SJAC)は、2022年7月18日から22日に開催された、「2022年ファンボローエアショー」に参加し、我が国の航空宇宙工業に関する国際交流・広報活動を実施した。その活動結果を次のとおり報告する。

1. 国際交流活動

1-1 会長レベルの交流

(1) 米国航空宇宙工業界(AIA)幹部との交流

開会式前日の7月17日(日)夜、米国航空宇宙工業会(AIA)主催のレセプションがロンドン市内で開催された。米国以外の企業、団体を含めた総勢350名規模の盛大なもので、SJACからは満岡会長をはじめ副会長ほか招待された。

レセプション開催に先立ち、VIPのみが参加する場に満岡会長は招待され、幹部との交流を深められた。

1-2 SJAC会員企業を含めた他国の航空宇宙工業会との交流

(1) SJAC - ASD (英国航空宇宙工業会) - ASD (欧州航空宇宙防衛工業会) 共催レセプション開催



AIA VIPレセプションにて
SJAC 満岡会長
AIA Eric Fanning CEO
兼専務理事



AIA VIPレセプションにて
SJAC 満岡会長
ADS Kevin Craven CEO
(ADS:英国航空宇宙工業会)



AIA VIPレセプションにて
SJAC 満岡会長
ボーイング社取締役
(元GE社副会長)
David L. Joyces氏

7月18日（月）午後、ファンボローエアショー会場内のADSシャレーにおいてSJAC・ADS・ASDの各メンバー企業と政府関係者を含む総勢80名ほどが参加した3団体共催のレセプションを開催した。ADSのJulian Whitehead 会長に続き、SJAC 満岡会長の挨拶が行われ、ASDのVincent De Vroey理事の乾杯の発声が行われた。レセプション会場では、久々の対面での交歓が積極的に行われた。



ファンボローエアショー
ADSシャレーにて
右からSJAC 満岡会長、
ADS Julian Whitehead 会長、
ASD Vincent De Vroey理事



AIACレセプションにて
SJAC 満岡会長
AIAC Mike Mueller
CEO兼専務理事



AIACレセプションにて
右から SJAC 満岡会長、
(株)SUBARU航空宇宙カンパニー
ヴァイスプレジデント（戸塚副会長代理）齋藤氏
AIAC Amandeep Kaler 副会長

(2) AIAC（カナダ航空宇宙工業会）・在英カナダ大使共催レセプション参加

7月18日（月）夕刻に同レセプションが在英カナダ大使公邸で開催され、SJACからは満岡会長ほかが招待された。この機会に幹部間での交流を深められた。

1-3 議員団視察行事への参加

今回のファンボローエアショーには、議員団（航空宇宙産業の振興を図る議員連盟）の視察があり、その行事のひとつとして、7月17日（日）の夜に在英日本大使館において、

議員団と在英日本国特命全権大使が共催するレセプションが開催された。SJAC 満岡会長は、その席において、乾杯の発声を務められた。



在英日本大使館レセプション

左から 宮澤 博行 自民党国防部長、大塚 拓 衆議院安全保障委員長、英国国防省関係者、SJAC 満岡会長、林 肇 在英日本国特命全権大使

1-4 その他の工業会との意見・情報交換

(1) GIFAS（フランス航空宇宙工業会）との面談

7月19日午前に、GIFASの Bourlot専務理事と Cedric国際部長と面談した。GIFASとして本年の12月13日に日本を訪問する予定があり、SJACとの打合せのほか、GIFASの日本支部、在日フランス大使館、経済産業省とも打合せを行いたいとの話があり、再会を約束した。情報交換としては、民間航空の回復は世間で言われているように2024年と考えていること、防衛装備品の輸出先としてインド、マレーシア、カタール等への輸出を開拓したこと、チタンの供給については、現時点では問題は顕在化していないが、早晩にロシアからの供給は問題になると考えられること、GIFASがDGCA（フランス航空当局）の予算

措置（予算規模は1.5Bユーロ（3年間で））をもとに取り組んでいるSMEs支援とプログラムがあること等があった。また、宇宙分野での日仏の協力も考えていきたいとのコメントのほか、来年のパリエアショー（2023年6月19日から開催）では日本のC-2、P-1の展示を期待しているとのコメントもあった。

(2) AIA（米国航空宇宙工業会）との面談

7月19日午後、AIAの Eric専務理事と Hardwick 国際部マネージャーと面談した。まずは、ICCAIAのメンバー拡大に備えてのガバナンス体制の整備についての意見交換が行われ、9月下旬開催のICCAIAのボードでの再会を約束した。その他に、SJACより経済産業省を含むメンバー構成される視察団の派遣が来年2月に実施される可能性があるため、

正式に決まった際の協力を依頼するとともに、2024年の秋に計画しているJA（国際航空宇宙展）の宣伝を行った。

(3) フィンランド航空宇宙工業会との面談

7月19日夕刻に、フィンランド航空宇宙工業会 Karanko Tujia 専務理事との打合せをSJACブースにて行った。フィンランドとしては、10/24の週に政府ミッションの日本への派遣を計画し、在日フィンランド大使館において10/26に開催予定のセミナーに対しての協力依頼があり、快諾した。ミッションは、Aerospace、Cybersecurity、Land（防衛の陸上分野）の3分野から構成される予定とのこと。なお、Karanko氏には、SJACブースの展示を1時間弱かけて全て視察いただいた。

(4) ジェトロ ロンドンとの情報交換

7月20日午前、ジェトロ ロンドンの中石所長及び崎重部長とロンドン市内で情報交換の機会を持った。行政側の中小企業支援について、今後の在り方等の意見交換をおこなった。

(5) MAIA（マレーシア航空宇宙工業会）との打合せ

7月20日の午後に、MAIA 幹部のDavid Anthony氏とSJACブースにて打合せを行った。まずは、David氏にSJACブース出展を視察していただいた後に、本年5月に両国政府間締結したMOCの対応を中心に打合せをおこなった。まずは、SJACの説明として、日本の民間航空機産業はCOVIDの影響を大きく受けて痛んでいるが、雇用は出来るだけ維持するとの日本的経営を取っている。加えて、USドルに対する大幅な円安もある。すなわち、海外進出（投資）を行えるような環境にはない。そのために、まずは企業の声を

聞き今後の対応を決めていくことになるが、中長期的な対応策になるのでは。もちろん、日本企業のミッション派遣、BtoB機会の検討、マレーシアによるセミナー開催等が考えられると説明した。

David氏からは、日本企業の状況は理解したので、引き続き相談してきたい。現時点では具体的な話を政府から聞いていない。なお、マレーシア企業から日本に対しては、航空法改正にともなう、海外の事業所認定（特に整備分野）の促進にまず取り組んで欲しい、中小機構殿の行っているイベント（注：CEO商談会）には今年も参加したいとのコメントがあった。

注：MOCの正式名称は「日本国経済産業省とマレーシア政府との間の航空機産業に係る協力に関する覚書」であり、本年5月27日に締結された。

(6) UK DSC（United Kingdom Defence Solution Center）との打合せ

7月21日午後にはUK DSCとの打合せSalzman氏、Nicke女史、Julie Marionneau マネージャーとの打合せを行った。来年3月開催のDSEI JAPANの際に第9回DID（産業間対話）を開催することに合意し、今後はWEB会議で調整を行っていくこととした。（注：第9回目のDIDは今回のファンボローエアショーの機会にも開催しようとしたが、都合が合わず延期となった。）

2. 国際広報活動

2-1 「2022年ファンボローエアショー」の概要

- (1) 会期：2022年7月18日（月）～22日（金）
トレードデー
22日（金）Pioneers of Tomorrow
（若年層への開放日）

これまで土曜日、日曜日に設けられていたパブリックウィークエンドは廃止になった。

(2) 会場：ロンドン郊外 ファンボロー飛行場

(3) SJACブース

①場所・面積：Hall 2 2117 商談コーナーを含めて350㎡

②出展会社：SJAC、会員企業8社、及びSME（非会員）4社、計12社（SJACブース出展会社）

・会員企業：(株)IHI、大同特殊鋼(株)、日立金属(株)、川崎重工業(株)、日本飛行機(株)、三菱重工業(株)、新明和工業(株)、(株)SUBARU、

・SME：旭金属工業(株)、Blue Sky Frontier(株)、東洋鍛工(株)、(株)ウラノ

③Japan Aerospace Workshop、及び「2024年国際航空宇宙展（JA2024）」説明会、レセプションを7月20日（水）に開催。

2-2 広報活動結果

(1) SJACブースの活動結果

・今回のSJACブースは、全体のメインカラーを白にすることで主役である各出展会社の展示品を引き立たせるデザイン。ブルーの曲線を用いた航空宇宙を想起させるグラフィックの統一モチーフをブースの随所に配置することでSJACチーム全体の統一感を演出するとともに、出展会社スタンドの展示壁面を最大限まで開放し、大型グラフィック等で効果的に来場者の興味を惹き、展示内容の細部までスムーズに導くことを工夫した。そして、広々としたスペースに余裕のあるレイアウトはブース内をストレスなく回遊できることから連日多くの来場者をお迎えすることができた。

・主なご来客として、衆議院議員（安全保障委員長）大塚 拓 様、衆議院議員（自民党国防部長）宮澤 博行 様、在英国日本国大使館 駐英特命全権大使 林 肇 様、防衛装備庁 装備官（航空担当）空将 後藤 雅人 様、装備開発官（次期戦闘機担当）空将補 門間 政仁 様、経済産業省 航空機武器宇宙産業課長 日暮 正毅 様、モデルロケット国際大会の日本代表普通土学園高等学校の皆さまなどにご視察いただいた。



衆議院議員（安全保障委員長）大塚 拓 様
ご視察



衆議院議員（自民党国防部長）宮澤 博行 様
ご視察



在英国日本国大使館
駐英特命全権大使 林 肇 様 ご視察



防衛装備庁装備官（航空担当）
空将 後藤雅人 様 ご視察



モデルロケット国際大会
日本代表 普連土学園高等学校の皆さま



“優勝おめでとうございます！”



SJACブースを視察する満岡会長

①SJACブースへの来場者等

SJACブースへの来場者数は、各社ブースに1,964名、商談コーナーに276名、合計2,240名であり、前回2018年を上回る多くの方にご来場いただいた。

今回は商談コーナーとして6卓（4席／1卓、計24席）を用意。壁面で覆うことのないオープンで明るい会議室を、開催初日から多くの出展会社および会員企業の皆様に有効活用していただいた。

また、7月20日（水）には、出展会社によるプレゼンテーション“Japan Aerospace Workshop at Farnborough International Airshow 2022”と“JA2024 Presentation”などの会場としても活用した。いずれの行事においても、多くの来場者をお迎えすることができ盛況であった。

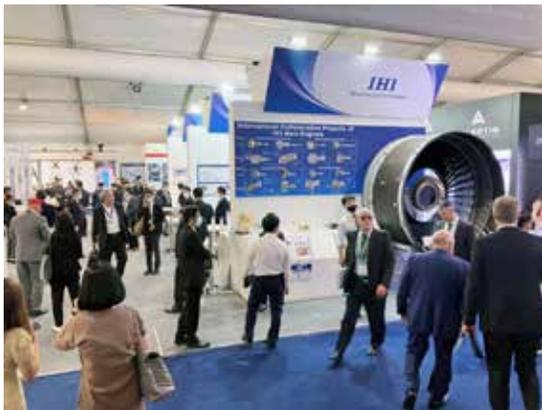
次回以降の計画においても、商談コーナーの造作に工夫をこらし、より有効に活用できるよう改善に努める。

(SJACブース来場者数)

区分	来場者数
ブース	1,964名 (1,450名)
商談コーナー	276名 (216名)
計	2,240名 (1,666名)

注. () は前回2018年の実績

②SJACブース出展概要



SJACブース

- ・(株)IHIは、我が国の航空機用エンジンのトップメーカーとして、小型から超大型クラスにわたり世界の民間航空機用エンジンの国際共同開発事業に主要なパートナーとして参画していることを、壁面デザインでわかりやすく紹介した。
実機展示としては、エアバスA320neoに搭



(株)IHI



PW1100G-JM CFRP Fan Module

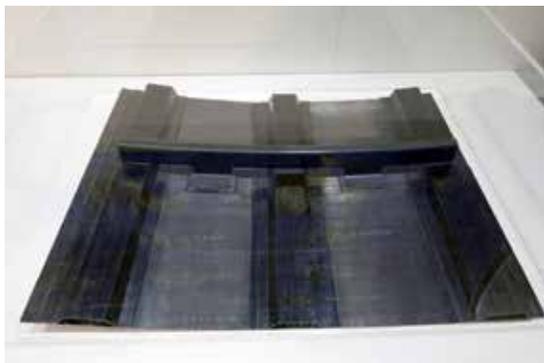


CMC Turbine Center Frame Liner

載されているPW1100G-JM用のCFRPファンモジュールと、ディスクと翼が一体構造型となっている低圧圧縮機ブリスク動翼を展示。

新技術への取り組みとして、高い耐熱性と軽量化を兼ね備えたCMC（Ceramic Matrix Composites）製部品と、熱可塑性CFRPパネ

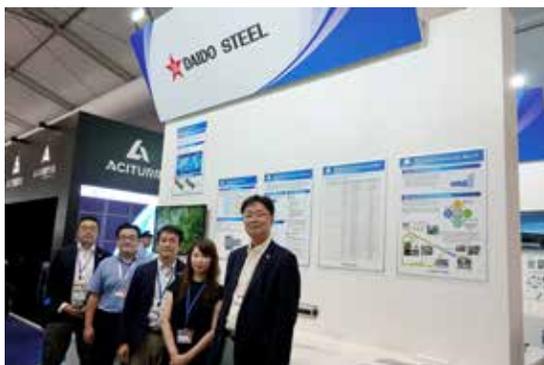
ルを紹介。熱可塑性CFRPは独自のプレス技術により大型部品でもオートクレーブを使わずに成形できることから成形時間の短縮と、製造時のCO₂削減が期待できるものである。



Carbon fiber reinforced thermoplastic structural panel

- ・大同特殊鋼(株)は、1916年創業、100年以上の歴史と実績を有しており、航空宇宙分野の他、自動車、エレクトロニクス、産業機械、鉄道、船舶、エネルギーなど幅広い分野で活躍するとともに、材料分野の将来に向けた可能性を追求している。

今回、民間航空機用の3軸構造エンジンシャフトのカットモデル (TRIPLE MELTED 718 SHAFT) を出展し、エンジンのコア部分に採用される高い技術力と信頼性を紹介した。同社製の民間航空機用エンジン



大同特殊鋼(株)



TRIPLE MELTED 718 SHAFT

シャフト部材はGE社、P&W社、RR社を含む国内外のエンジンメーカーに採用されており、抜きんてた高いシェアを誇っている。

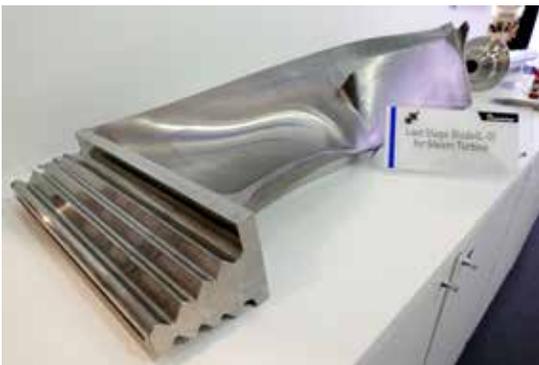
- ・日立金属(株)は、大型部材への製造技術と能力を紹介した。今回の製品展示の一つである、鍛造体として最大級のチタン製蒸気タービン低圧ブレードは、関連会社である日本エアロフォージ(株) (Jフォージ) の国内最大である5万トン大型鍛造プレスを効果的に活用することで製造したものであり、材料組成が安定した品質の高い大型部材を短時間で製造できることをアピールした。もう一つの製品展示として、民間航空機エンジン用低圧タービンシャフトを展示。1,700mmを超える長尺のエンジンシャフト



日立金属(株)



Low Pressure Turbine Shaft
for Civil Engines



Last Stage Bucket (L-0) for Steam Turbine

を溶解、鍛造から、各種機械加工、試験・検査まで、一貫体制で対応できる同社の強みを紹介。

併せて、パネルと映像で安来工場と桶川工場の設備、特色、得意分野などをわかりやすく紹介した。

- ・川崎重工業(株)は、同じグループの日本飛行機(株)とともに出展した。

川崎重工業航空宇宙システムカンパニーとして航空機事業とジェットエンジン事業を紹介した。

航空機関係は、P-1固定翼哨戒機、C-2輸送機の模型と併せてMCH-101掃海・輸送ヘリコプター掃海システム搭載型模型を展示した。ジェットエンジン関係は、世界的に最も小



川崎重工業(株)



P-1



C-2

型、軽量で先端技術と高信頼性を誇るヘリコプター用トランスミッションMD900 Transmissionカットモデル、ヘリコプターのトランスミッション技術を土台にしたT-IDGトラクションドライブ模型、KJ100ターボジェットエンジン試作品とKJ10ターボジェットエンジン(パネル)を展示



MD900 Transmission

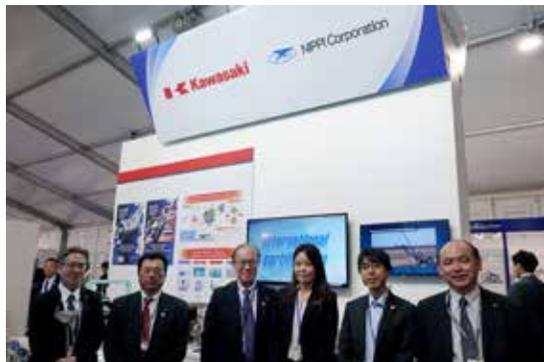


KJ100

した。KJ100は外径350mm、KJシリーズ最大の推力400kgf、KJ10はKJシリーズ最小・最軽量の外径166mm、推力53kgfと、いずれも小型で優れた性能のターボジェットエンジンであり、空対空用小型標的に適していることを紹介した。

- ・日本飛行機(株)は、整備事業拠点である厚木工場の整備用メインハンガー（540ft×177ftの広さがあり海上自衛隊P-3C哨戒機を最大10機格納可）の模型を展示し、多様なニーズに柔軟に対応できる体制と半世紀以上の歴史で培った整備技術をもって空の安全に貢献していることを紹介。

製造事業拠点である横浜工場では複合材部品を軸にフラップ、主脚扉、胴体フレーム、主翼リブ等の機体構造部品を設計・製造しており民間航空機、防衛航空機に分担生産に参画している。今回ファンボローではC-2輸送機の模型で担当部位であるフェアリング、エレベータ、バルジ、ランプドア等を紹介した。

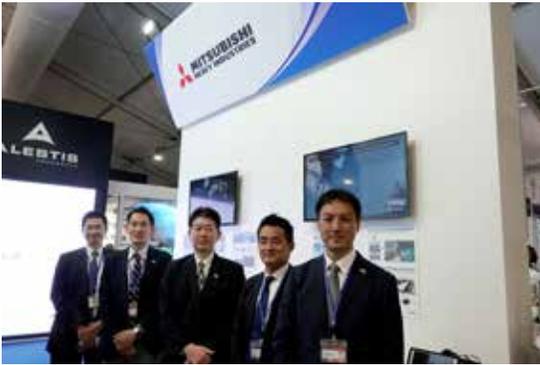


日本飛行機(株)



整備用メインハンガー

- ・三菱重工業(株)は、映像及びパネルにて民間航空機及び防衛・宇宙部門における製品紹介を行うとともに、航空機製造現場における改善活動や、全社的なサステナビリティの取り組みについて紹介を行った。製造現場でのデジタルトランスフォーメーション (DX) として、機体パネルの製造



三菱重工業(株)

製造現場DXとサステナビリティへの
取り組み紹介

先進セキュリティ製品の紹介

においてHoloLensを使用し、設計情報 (3Dモデル) や製造情報 (作業手順書データ) のホログラフィック3Dによる映像をMixed Reality (MR) 技術にて取り込み生産性向上を図る取り組みを紹介。

サステナビリティに関しては、工程廃材リサイクルによる環境保全への取り組みとして、航空機構造部品のCFRP廃材から取り出した再生繊維をプラスチック等と組み合わせた中間素材をもって家電製品の部品に活用する例を紹介。

また、安全・安心な社会の構築に貢献するための先進セキュリティ製品として、AI・無人機、サイバーセキュリティ、ビッグデータ分析への取り組みを紹介。

- ・新明和工業(株)は、同社のシンボルであり、世界的に優れた性能の救難飛行艇US-2を模型と映像で紹介し、US-2が誇る高い性能(短距離離着水 (STOL) 性能、荒海 (波高3m+) での着水性能、速い巡航速度での長距離航続性能) を海外に広くアピールした。開発中の案件として、熱可塑性CFRPパネルを紹介。熱可塑性CFRPの波板状コアを同素材のシートではさみ成形したパネルであり、主として航空機用の床板への適用を考えているもの。熱可塑性CFRPはリサイクル性に優れており、オートクレーブを使用しないで成形できることから低コスト、かつ製造時のCO₂排出を削減できることから環境に優しいこと、そして軽量化に寄与するなどのメリットがある。来場者には実際にパネルの上に立っていただき、十分な強度を有し、床板として適していることを体感できるという楽しい展示であった。本件の曲面パネルも開発中でありエルロン等の部品への適用が期待できる。



新明和工業(株)



US-2



Developed Thermoplastic Sample Panel



CFRP床板パネルを体感されている林大使

・(株)SUBARUは、陸上自衛隊新多用途ヘリコプターUH-2模型を展示。UH-2は、高い安全性と稼働率、広いキャビンに定評のある民間向け最新ヘリコプターSUBARU BELL 412EPXをプラットフォームに改造開発した機種であり昨年開発が完了し、2022年6月に量産初号機が納入された。

併せて、壁面グラフィックでボーイング機種における同社の主な担当部位である中央翼などを紹介した。普段は直接見ることができない、主翼と胴体の双方からの荷重が集まる中央翼の複雑なインターフェースを紹介することで、ものづくりの総合力をアピールした。



(株)SUBARU



UH-2

・旭金属工業(株)は、京都市に本社／工場を置き、岐阜安八工場を拠点に、機械加工、特殊工程、組立てなどを専門とする航空機器部品サプライヤー。分業体制の多い航空機部品産業において、工程プランニングから、機械加工、表面処理、塗装、組立までの一貫生産を実現するとともに、工程ごとに厳格な品質保証検査を実施し、顧客企業の求めるクオリティの製品を提供し続けている。Nadcap、ボーイング社、プラット&ホイットニー社等主要プライム各社やTier1から承認を得た50種類を超える特殊工程を保有。今回、Seat Rail、Composite samplesを出展し、金属加工、複合材部品の優れた技術を紹介した。

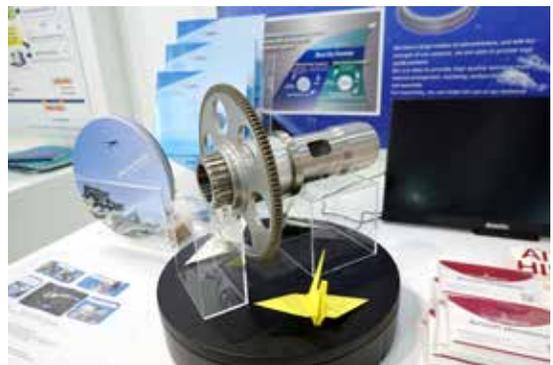
・Blue Sky Frontier(株)は、1940年創業の(株)日本パーカーライジング広島工場（NPH）から航空機部門であるBS事業部を分社化し2021年5月に設立された。広島市に本社／事業所を置き、航空機分野での事業拡大のため島根県江津事業所を展開。



Blue Sky Frontier(株)



旭金属工業(株)

Integrated production system,
Aluminum and titanium bonding
surface preparation、Masking process

Seat RailとComposite samples

NPH創業当時の自動車部品アルミ材陽極酸化処理から規模を拡大するとともに、航空機部品の陽極酸化処理、化成皮膜処理技術を確認し、航空機エンジンの大型部品の陽極酸化処理等の技術で航空機産業を支えている。

今回、Integrated production system、Aluminum and titanium bonding surface preparation、Masking processを出展し、高

い技術力と品質管理力による航空機部品製造で安心と快適の提供を目指していることを紹介。

- ・東洋鍛工(株)は、東京都大田区に本社、茨城県に竜ヶ崎工場をもち、専門としている金属部品（鍛造品）製造をとおして重要な社会インフラを支えている。高品質な鍛造品を提供するために積極的に効率的で独自性の高い新鋭設備を導入し、現代のニーズにあった効率的な生産を展開。



東洋鍛工(株)



ドライブシャフト、キャップナット、
パワードライブ用ギア、超合金ギア試作品、
油圧防振シリンダー

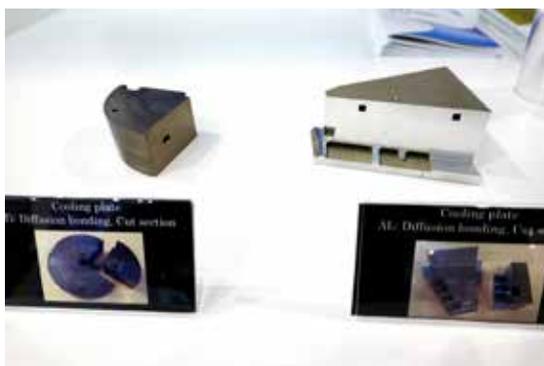
航空宇宙分野として、ボーイング767用を始めとする各種アクチュエーション部品、エンジン・補機部品、その他構造部品を製造。今回ファンボローでは、ドライブシャフト（SCM420）、キャップナット（TB340）、

パワードライブ用ギア（AMS 6265）、超合金ギア試作品（Inconel 718）、油圧防振シリンダー（15-5PH AMS 5659）を出展し、専門メーカーとしての高い鍛造技術を紹介した。注.()内は材質

- ・(株)ウラノは、埼玉県児玉郡上里町に本社／工場を置き、群馬県伊勢崎市と長崎県東彼杵町に工場をもつ金属加工（半導体製造装置部品、航空機機体・エンジン、医療関連部品、産業用タービン等）メーカー。特に航空機分野で求められるチタン合金やインコネルなど難削材の加工を得意としており、機体ではボーイング777、787、エンブラエルE170/190、エアバスA380等、エンジンではTrent XWB-84、PW1100-G JM、GE Passport等多くのプロジェクトにおける



(株)ウラノ



Cooling plate (Al: Diffusion bonding, Cut section)、
Cooling plate (Ti: Diffusion bonding, Cut section)

部品製造実績を有している。

今回Cooling plate (Al : Diffusion bonding, Cut section)、Cooling plate (Ti : Diffusion bonding, Cut section)、Bearing Housing (Cres : EBW and Brazing, Cut section) を出展し、金属加工技術に加えて、優れた拡散接合／溶接・ロウ付け技術を紹介した。

- ・ SJAC国際航空宇宙展事務局は、2024年秋に東京で開催する“2024年国際航空宇宙展 (JA2024)”を紹介した。国内外からの多くのご来場を期待する。

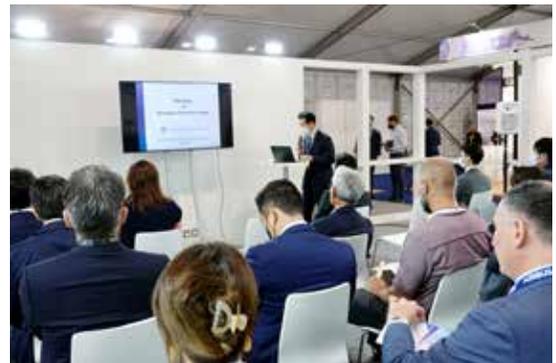


SJAC国際航空宇宙展事務局



③ “Japan Aerospace Workshop” & “JA2024 Presentation”

会期中3日目の7月20日（水）午前中、SJACブースの商談コーナーにおいてSJAC出展会社のうち7社によるプレゼンテーション“Japan Aerospace Workshop”を行った。本企画は2013年のパリエアショーでの試行を含めて、今回のファンボローエアショーで8回目の開催。各社アテンダントによるプレゼンテーションは回を重ねるにつれてレベルアップしており、来場者に各人の思いがしっかりと伝わる良いプレゼンテーションであった。そして、多くの聴講者をお迎えすることができ、盛況であった。SJACブースにおける毎回の行事として周知され、定着したように考える。引き続き“JA2024 Presentation”（説明会とレセプション）を行い情報発信した。レセプションでの意見交換を通してJA2024への期待感を感じ取った。



Japan Aerospace Workshop



取材（テレビ東京）

(2) 国内メディアへの事前説明と現地での取材

- ・今回の出展に先立つ7月7日（木）、SJACにて国内メディアへの出展説明会を行った。出展説明会では各出展会社より展示概要を説明し、質疑にお答えした。本件に出席したメディアは以下のとおり。

日本経済新聞社、航空新聞社、航空ニュース社、ジャパン・ミリタリー・レビュー、日刊航空、航空ジャーナリスト竹内 修氏、計6名

- ・現地には、航空ジャーナリスト竹内 修氏、日本経済新聞社、テレビ東京が取材に訪れた。

(3) Pioneers of Tomorrow

- ・これまではトレードデーに引き続いて土曜日、日曜日に設けられていたパブリックウィークエンドが廃止になった。今回からトレードデー最終日の金曜日（7月22日）がPioneers of Tomorrowとして若年層へも開放され、次世代の青少年に航空宇宙産業を紹介する日に充てられた。

(4) その他

- ・今回のファンボローエアショーは、会期中の前半は観測史上最高温との報道の気温40℃に上り非常に暑い日もあったが、会期中雨に降られることもなく、好天に恵まれ、盛会であった。そして、SJACが準備した記念品の扇子が大変な人気となり、多くの来場者に喜んでいただいた。



Pioneers of Tomorrowの賑やかな様子

- ・ SJACブースにもVIPご視察を含めて多数の見学者が訪れた。最終日のPioneers of Tomorrowには、周辺の学校から生徒、学生が多数訪れ、熱心に見学する様子にファンボローエアショーが英国における若年層向けの人材育成に活かされていると感じた。SJACブースの運営としては、出展会社12社のアテンダントとSJAC及び協力会社関

係者約30名が良好な協力関係のもと、多くの来場者をお迎えした。併せて、準備段階から会期中、そして会期終了後の撤収を含めて、更にはコロナ禍の環境において参加関係者に事故がなく、安全に所期の目的を完了できたことを何よりも有難く思うとともに、全ての関係者に感謝申し上げます。



“皆さま、お疲れさまでした！”

2022年 ファンボローエアショー SJAC各社出展品目

会社名	出展品	会社名	出展品
1 (株) I H I 	<ul style="list-style-type: none"> ・PW1100G-JM Turbofan Engine ・Carbon-fiber-Reinforced-Plastic (CFRP) Fan Module ・Integrated Bladed Rotor (IBR) ・Carbon fiber reinforced thermoplastic structural panel ・Ceramics Matrix Composite (CMC) Turbine Center Frame Liner ・Ceramics Matrix Composite (CMC) Low Pressure Turbine nozzle 	5 日本飛行機 (株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備ハンガー模型 ・C-2 輸送機模型
2 大同特殊鋼(株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・TRIPLE MELTED 718 SHAFT ・パネル 	6 三菱重工業 (株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・B787, B777X (Scale Model) ・Advanced System Programs (Display Panel)
3 日立金属(株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Low Pressure Turbine Shaft for Civil Engines ・Last Stage Bucket (L-0) for Steam Turbine ・会社紹介パネル 	7 新明和工業 (株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・US-2 Model/DVD Show ・Developed Thermoplastic Sample Panel
4 川崎重工業 (株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・P-1 明成機模型 ・C-2 輸送機模型 ・P-1 パネル ・C-2 パネル ・KJ100 ターボジェットエンジン試作品 ・KJ100 ターボジェットエンジンパネル ・KJ10 ターボジェットエンジンパネル ・T-10G トラクシヨンドライブ模型 ・T-10G トラクシヨンドライブパネル ・MD900 メイントランスミッションカットモデル ・MD900 メイントランスミッションパネル ・MCH-101 ヘリコプタ模型 ・MCH-101 ヘリコプタパネル ・空対空小型標的機パネル ・高出力レーザパネル 	8 (株) SUBARU 	<ul style="list-style-type: none"> ・UH-2 桌上模型

全国航空機クラスター・ネットワーク (NAMAC) 出展品目

会社名	出展品	会社名	出展品
9 旭金属工業(株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Seat Rail ・Composite samples 	11 東洋鍛工 (株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブシャフト (SCM420) ・キャップナット (TB340) ・パワードライブ用ギア (AMS 6265) ・超合金ギア試作品 (Inconel 718) ・油圧防振シリンダー (15-5PH AMS 5659) () 内は素材
10 Blue Sky Frontier(株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Integrated production system ・Aluminum and titanium bonding surface preparation ・Masking process 	12 (株) ウラノ 	<ul style="list-style-type: none"> ・Cooling plate (Al: Diffusion bonding, Cut section) ・Cooling plate (Ti: Diffusion bonding, Cut section) ・Bearing Housing (Cres: EBW and Brazing, Cut section) ・Masking process

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部长 羽中田 実、広報部长 高木 伸吾〕